

外保連ニュース

第2号 2004年5月発行 外科系学会社会保険委員会連合 広報委員会

平成16年度診療報酬改定の総括
外保連会長 出月康夫

今回の改定も医科報酬±0%という厳しいものとなった。医業経営実態調査で医業経営が黒字と出ている限り医療費を減らそうという政策の結果であるが、企業努力と医師の過重労働の強化で何とか収支を合わせるたびに、診療報酬が下げられてしまうのでは、医業経営は先細りとなるばかりである。

今回の改定についていえば、根拠のない手術の施設基準の導入や、不合理的な逓減制の拡大、技術を無視した報酬点数の逆転など、あまりにも出鱈目であった前回(平成14年度)改定が幾分か是正されたことは評価できるにせよ、厚労省が掲げる医療技術の尊重とは程遠いものであった。

本連合が緊急是正を要望した手術の施設基準があまり実害のない形に改められ、リハビリなどの逓減制が幾分か緩和され、明らかに難度の高い手術の報酬の逆転が元に戻されたが、それぞれの行為に対する点数は下げられており、外保連が提案しているきちんと根拠に基づいた合理的な診療報酬点数とは、むしろ差が大きくなってしまっているのは問題である。

不十分とはいえ、加算がいくつかの項目に認められ、吻合器、縫合器などで実態に見合った使用箇数が認められ、肺塞栓の予防処置に保険が適用されるなど、これまで外保連が要望してきたものが少数ではあるが認められたが、新規技術の保険適用は、依然としてきわめて少数である。医療技術の進歩の恩恵を国民が等しく享受できるよ

うになるのは、一体何時のことであろうか。

DPC/PPSの拡大の影響、悪急性期医療の導入、情報提供に対する評価などの新しい制度が矢継ぎ早に導入されてきたが、本連合も今後はこれらの問題についても検討し、発言していく必要があるものと考えられる。

【平成16年度活動方針】

手術委員会 委員長 山口俊晴

手術委員会の最も重要な業務は、手術試案の作成と公開だと考えています。医療技術の進歩にとめない、新しい術式の評価(技術度、必要人数、時間など)と、既に掲載されている術式の評価の改正が、常に必要です。委員会では参加学会から提出された新術式や、評価を改正すべき術式について検討し、参加外科系学会のコンセンサスを得た上で、試案に掲載することとしております。現在この手術試案は、診療報酬改定の極めて重要な資料として参考にされています。多くの学会のコンセンサスの上になり立った技術評価ではありますが、これが本当に適正であるか科学的な、あるいはエビデンスに基づいた検討は十分とは言えません。技術評価の客観性は難しい点がありますが、少なくとも必要人数や時間については、実地調査の上でその妥当性を検証する必要があると思います。施設基準の問題などでこの検討は遅れておりますが、いずれ診療報酬改定のルールが科学的な根拠に基づいたものになること考えますと、将来に渡って試案の信頼性を維持するためにも、外保連としての調査検討が必須と思われるま

す。

また、手術の施設基準の問題は、手術委員会としても引き続き全廃を求めて活動を続ける必要があると考えております。症例数により単純に施設基準を決めることの妥当性を示すエビデンスはほとんどありません。しかし反対に、症例数が手術成績と相関しないこと示したエビデンスも多くはありません。単に反対するのではなく、学会や外保連として科学的な根拠を厚生労働省やマスコミ、そしてだれよりも国民にわかりやすい形で示すことが望まれていると言えましょう。今後継続される調査に対する、各学会の協力をよろしくお願いいたします。

最後に、近年電子カルテの普及や、DPCに基づく包括医療が一部で施行されています。これらの是非はともかくとして、病名の分類検討はかなり行われていますが、手術術式名については十分な整理検討ができていない状況です。今年度から手術委員会として、術式名の整理と分類およびコーディングの検討を開始することといたしました。適正な手術術式名を外保連として示すことで、術式名の不統一や、適切でない手術術式名による様々な混乱が解消されると期待されます。

処置委員会 委員長 関口順輔

処置報酬に関する外保連試案〔第2版〕を改訂して第3版を作製することに全力を挙げたいと思います。

主な改正内容は以下の通りです。

- 1) 新規処置項目の追加および現行項目の見直し。
- 2) 前回処置術者だけ関与時間を別に考慮していましたが、今回処置に関与する1人1人について別個に考慮したい(分単位とする)。この際1人で複数の患者を取り扱う場合には関与時間÷患者数とする(例：看護師1人が5人の患者を取り扱う場合など)。

3) 消耗品等の直接経費については病院協会などの資料を基に実質購入価格に近いものを記載したい。

4) 厚労省調査票に沿った形で試案を作成し、要望書を円滑に提出出来るように努力する。

以上ですが事務仕事および全体会議を少なくするためメールによる配信を原則としたいと思っています。また処置項目の新規・改正要望は広く使われている Excel で登録して頂きたいと思っています。

検査委員会 委員長 土器屋卓志

1. 生体検査試案 現行第2版を改訂して第3版を発行します。

改訂の主な内容は

- 1) 新しい検査項目、現行検査項目の見直しを行う。
- 2) 保険記号を追加記載する。
- 3) 検査に必要な特定保険材料を追加記載する。
- 4) 機器使用料・検査室使用料の見直し等を主体に討論と資料収集を行います。

手術・処置試案と足並みを合わせて、18年度の点数改定の資料に間に合うように作業を進める予定です。

2. 検査項目の登録・修正などはなるべくメールによる登録方法を使いたい。

ホームページの利用が可能かどうか広報委員会にお願いしてみる。

実務委員会 委員長 木村泰三

平成16年度の診療報酬改定によって、手術施設基準の緩和と、基準を満たす施設における点数の加算が認められた。外保連の要望は実質的に満たされたといえる。また、自動縫合器、吻合器の使用限界個数についても、実態に基づいた個数に改善された。しかし、手術、検査、処置などの新設・改定の要望項目は、「診療報酬増額せず」の政策のもと、多くが受け入れられなかった。

実務委員会としては、今年度も各学会から診療報酬の新設・改定の要望項目(特に急を要するもの)を出していただき、厚労省に働きかけたい。また、今年度は厚労省の求める内容(昨年暮れに求められたもの)も勘案して、要望項目の書式を改めたい。

今回の主な改定内容に「医療技術の適正な評価(難易度、時間、技術力等を踏まえた評価)」がかかげられ、外保連の従来からの主張が認められた。中医協の不祥事もあって、診療報酬の決め方が問題となっている今日、外保連の存在と活動を社会にアピールしていきたい。

総務委員会 委員長 佐藤裕俊

総務委員会では、昨年度は、診療報酬医科点数表の中に散在している指導料・管理料・加算をリストアップ・整理し、外保連として基礎的根拠に基づいた算定方式を確立しようと試みた。しかしその項目数は700～800に及び、その中のかなりの部分が内保連などと共通項目であり、技術度・人件費・時間数の3要素だけでは解決しないことが判り、現段階では一応保留状態になっている。しかし本年度も厚労省への要望項目の中に当然この種のものが各学会から提出されてくるものと思われるので、昨年同様検討したいと思っている。また、手術試案をはじめとする外保連試案が改定されれば、人件費算出の基礎データとなっている国家公務員給与表が、昨年・一昨年にわたり減棒されているので、本年度の人事院勧告が出された段階で算出する。

総務委員会はA d - H o c 的性格をもつ委員会であるが、各委員会間の調整的委員会でもあり、広く目配せしたいと思っている。

広報委員会 委員長 松下隆

外保連ニュース第2号をお届けします。広報委員会のメンバーは(出口修宏(泌尿器)、金子剛(形成)、河野匡(内視鏡外科)、水沼仁孝(IVR)、西井修(産婦人)、竹中洋(耳鼻咽喉)、山口俊晴(外科、胃癌))と変わりありません。年4回発行する予定ですがまだ軌道に乗っていません。内容につきましても、今回も会長の「平成16年度診療報酬改定の総括」と各委員会委員長による委員会報告のみと前回と大きな変化はありません。掲載内容を徐々に増やして行く予定ですので、掲載内容についてご意見などあれば外保連事務局内広報委員会宛にお寄せ下さい。

また、広報委員会では、ホームページを立ち上げるべく準備を進めております。外保連委員間の情報交換が確実に早くできるよう工夫しておりますので楽しみにお待ちください。

外保連事務局連絡先

〒105-6108 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル8階
日本外科学会事務局内
TEL:03-3459-1455
FAX:03-3459-1456
E-mail : gaihoren@jssoc.or.jp

外保連試案のご注文について

外保連試案ですが、保険診療報酬の改定にあたって、改定を要求する側ばかりでなく、厚生労働省等にとっても本書は重要な資料となっております。

ご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

訃報

昭和 61 年 4 月から精力的に本連合の活動にご尽力され、処置委員長として外保連処置試案初版及び第 2 版を作成されました中村純次監事（日本形成外科学会）が、去る 5 月 12 日にご逝去されました。享年 71 歳でした。ここにご逝去を悼み衷心よりお悔やみ申し上げます。

外保連役員

会長：出月康夫 会長補佐：山口俊晴
手術委員長：山口俊晴
処置委員長：関口順輔
生体検査委員長：土器屋卓志
実務委員長：木村泰三
総務委員長：佐藤裕俊
規約委員長：出口修宏
広報委員長：松下隆

名誉会長：三島好雄 比企能樹
顧問：勝俣慶三 日下部輝夫 高橋英世
松田静治
監事：松田静治

外保連加盟学会（2004 年 5 月現在）

日本外科学会、日本整形外科学会、日本麻酔科学会、日本眼科学会、日本泌尿器科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本産科婦人科学会、日本口腔科学会、日本形成外科学会、日本消化器外科学会、日本脳神経外科学会、日本胸部外科学会、日本救急医学会、日本小児外科学会、日本移植学会、日本人工臓器学会、日本大腸肛門病学会、日本癌治療学会、日本医学放射線学会、日本乳癌学会、日本臨床外科学会、日本超音波医学会、日

本自己血輸血学会、日本内視鏡外科学会、日本手の外科学会、日本ストーマリハビリテーション学会、日本血管造影・インターベンショナルラジオロジー学会、日本脊椎脊髄病学会、日本集中治療医学会、日本腹部救急医学会、日本皮膚科学会、日本内分泌外科学会、日本 Endourology・ESWL 学会、日本血管外科学会、日本臨床整形外科医会、日本リハビリテーション医学会、日本消化器内視鏡学会、日本病院脳神経外科学会、日本静脈学会、日本臨床神経生理学学会、日本呼吸器外科学会、日本胃癌学会、日本リウマチ学会、日本理学診療医学会、日本血管内治療学会、日本医工学治療学会、日本関節鏡学会、日本門脈圧亢進症学会、日本レーザー医学会、日本整形外科勤務医会、日本外科代謝栄養学会、日本病理学会、日本婦人科腫瘍学会、日本心臓血管外科学会、日本整形外科スポーツ医学会、日本熱傷学会、日本脊髄障害医学会、日本中毒学会、日本ペインクリニック学会、日本褥瘡学会、日本肝胆膵外科学会、日本病院学会、日本静脈経腸栄養学会、日本脳卒中学会

全 64 学会